　　　発表タイトル、、、

○修士花子、学士一郎（岐阜大・応用生物）

　本文、、、(ダミーテキスト) 蜜腺と花蜜の進化の原点は比較的はっきりしない。・・・・・・・・・研究者たちは，被子植物科の進化の幅広いスケールに取り組んで，・・・・・蜜腺発生率，多様性，起源と機能の概要を提供した。蜜腺と花蜜の起源に関する概念がどのように新情報に照らして修正されたかについて，下記の2つの対照的な例は示す。第１に、被子植物の分類において，Armen Takhtajan (1980)は，蜜腺の目的と起源についての単純な，簡潔な記述をする：最初の花粉媒介者は，きっと甲虫であった….。虫媒受粉の元の誘引物質は，花粉であった…。しかし，結果として花がその選択肢としてより安い食品（花蜜）を生じ始める進化の過程に、花粉エコノミーの必要性は・・・・・。花蜜の生産のために、特殊構造は蜜腺としてつくられる・・・・。より初期の仮説と対照的に，初期の被子植物花進化の花粉媒介昆虫への報酬は，花の分泌物であり，花粉でない・・・・・・。

提出はワードデータでお願いします。タイトル：18ポイント、ゴシック系フォント≠太字

発表者名・本文：16ポイント、発表者名の前に○印を付す。明朝体系フォント。

余白：上下左右30mm。　レイアウトは印刷時に多少変化します。

※実際の印刷サイズは、A5サイズ（A4サイズで提出されたものを縮小します）です。